Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-27

少子化社会での女性の役割（トピックス 女医問題）

小泉, 直子

(Citation)
神戸大学医学部神緑会学術誌, 15:129-130

(Issue Date)
1999-08

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81007627

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007627

少子化社会での女性の役割

兵庫医科大学公衆衛生学教室　小泉直子（43年卒）

近年，全雇用者の約4割を女性が占めている状況の中で，男女雇用機会均等法の制定や労働基準法の規制緩和が急速に推進されている．医学部への女子入学者数も，女性の高学歴化，性別意識の低下等により，我が大学でも3割以上を占めるようになった．我々が入学した当時は，教授から「女性の入局は遠慮して欲しい．」と言われたことを思うと隔世の感がある．その反面，現代の女子医学生をみていると，「女性だからよく勉強する」とか「しんどいことはしない」，といったイメージで捉えられていた学生や女医さんはいなくなったように思われる．

この女医という言葉は，ワープロで打つとすぐ出てくるが，男医という言葉は熟語として出てこないのである．したがって，医療の社会では，医者は男性で女医は医者の中では特別な目で捉えられているのだろうか．女医になった人で，何度も看護婦と間違えられた経験を持つ人は多いと思う．また，女医さん自身ですら「女医会」なるものを作って，男医に対抗していることもあるのである．

現代の少子化問題について考えてみると，医学領域に限らず，一般社会でも女性が社会で仕事をしながら子育てをするということは大変なことである．例え子育て支援などという法律や規則ができようとも，まだまだ現社会でその認識が浸透し，男女平等に子育てをしているかというと，決してそうではない．私は公衆衛生の分野に入り，少子・高齢化の問題について行政の審議に加わることが多いが，その問題を議論する委員達は男性ばかりであったり，女性がいても数%以下である．私からみると少子化を解決する手段は，男女が本当に子育ての役割分担をし，助け合おうとする認識と行動である．それでも女性は妊娠・出産という負担から逃れられないのである．現在さらに進行しつつある少子化が，国家存亡を左右しかねない状況にある時，議論や法律で解決できるものではない．男性達が作った方策で少子化を解決できると思っている間は，女性はいつまでたっても，自分の仕事や生活を中心に選択するであろう．子供は国家の財産であること，子供を育てる幸せがあるということだけで，子育てを納得する女性は少なくなったのではないだろうか．少子化問題は，女性が中心になって解決すべきことであり，出産・子育ての期間，男性にどのように協力して欲しいかを議論し，要求すべきことをきっちりと整理し，体制を整えてもらうことである．

私は一応社会の中で，男性と対等に仕事をしているつもりであるが，この世に半分女性がいるのに，社会問題のほとんどを男性に任せ，男性に決めてもらっていることに女性が疑問を持たないのが不思議でたまらない．少子化対策などは，男性に解決してもらっているから，少しも機能しないのである．もちろん，女性でなくても決められる問題はいくらでもあるかもしれないが，この問題だけは男性がいくら議論しても，女性が「産む意志はありません」といったらおしまいである．現代女性が子供を産まない理由を，男性がいくら考えても，それは想像の域を出ないのである．すなわち，少子化の問題は女性が重要な鍵を握っているわけだから，男性が議論し施策を決定するのではなくて，女性に解決してもらうのが最も手っ取り早い方法ではないかと思う．

この世の中で，男性が解決した方がよい問題，女性の考えを重視しなければならない問題，両方が平等に考えなくてはならない問題などがいろいろあると思う．すべて「女性は男性と常に対等で，何でも同じ立場で参画しなければならない」とは私は決して思っていない．この世に男女がいるということ自体が男女が同じでないということの証明である．各個人をとってみても，顔，容姿，すべて同じではない．さらに外見

だけでなく，能力もすべて差がある．得て不得手もあり，決して平等に創られていない．違いがあって当たり前なのである．したがって，男女はお互いの特性を生かせるように，長所・短所を補いあい助け合って共存すれば，１＋１＝２以上のことができると信じている．

私は自然界の動物としては，女性の方が男性より，先天的に体力・精神力で優っていると思っている．どの国でも，女性の平均寿命が男性より長いことがそれを証明している．

以上は，社会全般についての女性の立場について述べたが，私個人の面から考えてみると，女性であることで，損をすることもあれば，得をしていることも大いにある．平均すれば男性同様，ほぼ同じであるように思う．むしろ今の世の中では，性差よりも個人の実力差の方がよほど大きいと確信している．